枚方消防署　新庁舎整備基本構想

令和６年３月

枚方寝屋川消防組合

目次

１　枚方消防署新庁舎整備基本構想策定に至る経緯・経過

２　枚方消防署の現状と課題

⑴　庁舎に関する現状と課題

⑵　車庫に関する現状と課題

⑶　土地に関する現状と課題

⑷　訓練に関する現状と課題

３　新庁舎整備に関する基本方針

４　新庁舎に備える必要な機能・設備

⑴　庁舎機能・設備

⑵　車庫機能・設備

⑶　訓練施設

５　新庁舎整備に必要な庁舎規模及び敷地面積

参考資料

1　枚方消防署新庁舎整備基本構想策定に至る経緯・経過

本消防組合を構成する枚方市及び寝屋川市は、大阪と京都のほぼ中間に位置し、そのアクセスの良さから高度経済成長期には大都市近郊のベッドタウンとして発展し、昭和 40 年代から 50 年代にかけて急激に人口が増加しました。

これに伴い、枚方・寝屋川両市において幹線道路の整備や住宅建設が進む中、消防庁舎の建設や消防本部機能の拡大が必要となりました。

そのため、昭和 46 年 1 月に枚方・寝屋川両市の消防防災活動拠点として枚方市大垣内町に消防本部・枚方消防署合同庁舎を建設し、中振出張所から指令機能を有する消防本部を移転しました。

その後、指令機能の中振出張所への再移転や消防本部機能の枚方市新町への移転などを経て、現在に至っています。

近い将来、南海トラフ巨大地震が高い確率で発生すると予測されているとともに、近年、大規模な自然災害や事故等が国内外で多発し、社会基盤を揺るがすような甚大な被害が発生している状況に加え、世界的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症への対応など、消防の果たすべき役割は増大し続けており、これらの災害等に迅速かつ確実に対応していく必要があります。

本消防組合では、第４次将来構想計画を平成 28 年度に策定し、枚方消防署については、枚方市駅周辺再整備ビジョンを勘案しながら、移転・建替えを含めた検討を進めてきました。

さらに令和 12 年度までを計画期間とする第５次将来構想計画を令和５年度に策定し、本消防組合の署所については、昭和 40 年代から 50 年代に建設された建物が多く、施設の老朽化が進んでいることから構成市における公共施設等の整備方針を踏まえ、署所の整備を進めていきます。

これらの検討を踏まえ、「安全・安心を実感できるまち　ともにつくる」に資するため、枚方消防署新庁舎整備に係る基本構想を策定するものです。

枚方消防署

２　枚方消防署の現状と課題

⑴　庁舎に関する現状と課題

枚方消防署は、昭和 46 年１月に建設され、建築後 50 年以上が経過しており、庁舎の老朽化が顕著であります。平成７年の阪神・淡路大震災以降、耐震性に問題があることが判明したため、平成 19 年度に今後の建て替えを視野に入れながら、最低限の耐震補強工事を実施しました。

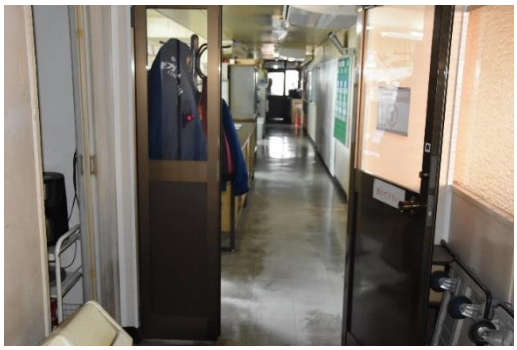
平成 30 年度に発生した大阪府北部地震の影響により、外壁等の一部に損傷が見られ、大規模な修繕が必要な状況です。

枚方消防署の敷地面積は 2,099.5 ㎡で、他の消防署と比較して敷地面積が狭い状況（枚方東消防署 3,255.6 ㎡、寝屋川消防署 3,260.9 ㎡）です。

【枚方消防署】

	現在位置：枚方市大垣内町２丁目 10 番 22 号
	敷地面積：2,099.5 ㎡
「庁舎」	建築年月：昭和 46 年１月
	構　　造：鉄筋コンクリート造、地上５階建て
	延床面積：2,468.9 ㎡
「ガレージ兼倉庫」	建築年月：昭和 58 年４月
	構　　造：鉄筋コンクリート造、地上２階建て
	延床面積：365.9 ㎡

枚方消防署正面玄関



枚方消防署廊下

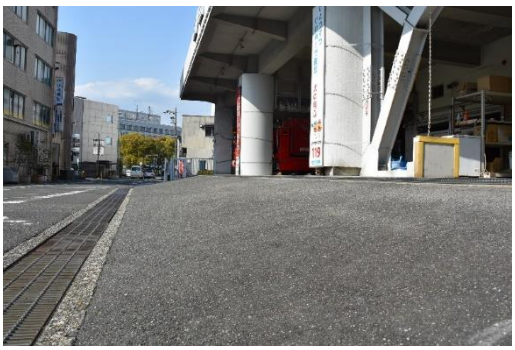
⑵　車庫に関する現状と課題

現在、枚方消防署には指揮車、ミニタンク車、救急車、救助工作車、支援車Ⅱ型を配備しています。以前は、消防署にはしご車や化学車などの大型車両も配備していましたが、耐震補強工事に伴いガレージの使用が一部制限されたことにより、はしご車や化学車等の消防車両の他所への移転を余儀なくされ、本署としての機能が十分に果たせていない状況です。

また、車庫と道路面には高低差があるため、迅速な出動に支障をきたしているとともに、車両収納時にも細心の注意が必要です。

車庫内にあっては、迅速・確実な出動を行うための十分なスペースが確保できておらず、装備の着装や資器材の積載に支障があります。

ガレージ①


ガレージ②

⑶　土地に関する現状と課題

枚方消防署は、本消防組合管内のほぼ中心に位置し、管内には京阪枚方市駅や枚方市役所等を包含しており、敷地面積は 2,099.5 ㎡であり、消防署としては敷地面積が狭い状況です。

敷地が狭いことから、十分な訓練スペースが確保できておらず、消防防災活動能力の維持向上を図るための充実した訓練施設が整備できていない状況です。

また、はしご車等の大型車両にあっては、敷地内への進入自体が困難な状況です。さらには、来庁者用の駐車スペースと訓練スペースが共有されていることから、訓練時には来庁者に枚方市役所駐車場への駐車を依頼するなど、市民に負担をかけている状況です。

署庭での訓練状況

【参考】

名称	建築年月	延床面積（㎡）	敷地面積（㎡）
枚方東消防署	S61.4	1,991.9	3,255.6
寝屋川消防署	S46.1	2,352.6	3,260.9

⑷　訓練施設に関する現状と課題

枚方消防署の敷地面積は2,099.5㎡で、他の消防署として比較して敷地面積が狭い状況（枚方東消防署3,255.6㎡、寝屋川消防署3,260.9㎡）です。また、様々な災害を想定した訓練を行うための施設がなく、単管を組み合わせて設営した簡易的な足場や消防庁舎の一部を活用して訓練を実施しているところです。

職員の大量退職により若手職員が増加している中で、職員の災害対応能力の向上や安全管理体制の構築は喫緊の課題であり、そのためには十分な訓練を行うための環境整備が不可欠です。

鉄パイプで組んだ模擬訓練塔

【参考】

名称	訓練施設
枚方東消防署	主訓練塔　　（耐火造、地上８階建て） 補助訓練塔　（準耐火造、地上５階建て） 屋外プール　（縦 25m、横８ｍ、最大深度３ｍ）
寝屋川消防署	仮設訓練塔　３棟

枚方東消防署　主訓練塔　補助訓練塔

寝屋川消防署　仮設訓練塔

３　新庁舎整備に関する基本方針

現枚方消防署が抱える課題を踏まえ、新庁舎の整備に向けた基本的な方針を次のとおり定めます。

【基本方針】

⑴　市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎

⑵　大規模災害等での代替拠点となる庁舎

⑶　市民の防災研修の拠点となる庁舎

⑷　経済性、機能性、環境面に配慮した庁舎

⑴　市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎

消防防災活動の拠点として、通常時はもとより大規模災害時にも有機的な機能を維持することが必要であり、また、消防署を訪れる市民の安全を確保することも必要です。

そのため、高い耐震性を備えた構造とするとともに、消防車両や各種資器材が地震や集中豪雨等の災害から被害を最小限に抑えられる車庫の構造や資器材収納方法に十分配慮した庁舎とします。

⑵　大規模災害等での代替拠点となる庁舎

平成 26 年 10 月 31 日改正の消防力の整備指針に基づき、大規模地震及び風水害等により、消防本部がその機能の維持を失った場合の代替施設として、災害応急対策の機能を維持できる庁舎とします。

⑶　市民の防災研修の拠点となる庁舎

枚方市民が消防、救急、防災等について学習し、研修できる機能を有する庁舎とします。また、自主防災組織を牽引する地域防災リーダーの指導、育成をはじめ防災活動の拠点となる庁舎をめざします。

⑷　経済性、機能性、環境面に配慮した庁舎

機能性を重視し、職員にとって勤務しやすい庁舎とするとともに、バリアフリーなどのユニバーサルデザインを基本とし、来庁される市民にとっても利用しやすい庁舎とします。

また、コスト意識を重視し、庁舎の建設から竣工後の維持管理、運営に至る総合的な過程において、経済性、合理性を追求した庁舎とします。

エネルギーに関しては、自然エネルギーの有効活用を図るとともに、省エネルギー設備の導入など、環境負荷の低減に努めるとともに、施設や敷地内の緑化等により、地球環境に配慮した庁舎とします。

4　新庁舎に備える必要な機能・設備

⑴　庁舎機能・設備

①　免震または耐震機能

大規模災害時にも防災活動拠点としての機能を維持できるように、建物全体を免震又は耐震構造（Is 値 0.9 以上）とします。

※Is 値…建築物の耐震性能を表すための指標、消防庁舎等の防災拠点となる建築物は通常（Is 値 0.6）の 1.5 倍の耐震性能を確保することが望ましいとされている。

②　セキュリティ機能

庁舎の出入口をはじめ必要な場所に防犯カメラなどを設置し、セキュリティ対策に努めます。

③　ユニバーサルデザイン

身体障がい者や高齢者、園児、小学生などすべての方が利用しやすい、市民にやさしい庁舎とします。

また、女性吏員が勤務できる環境を整備します。

④　レイアウト

複雑多様化する災害に対して迅速な災害活動を行うため、庁舎内及び敷地内は業務効率を踏まえた機能的なレイアウトとし、出動動線の最適化を図ります。また、毎日勤務職員の来庁者への対応を考慮した配置とします。

⑤　水害対応

台風やゲリラ豪雨などの風水害や河川の氾濫など、未曽有の災害が発生した場合でも、消防庁舎としての機能を維持できる庁舎を整備します。

⑵　車庫機能・設備

①　車庫

ミニタンク車、救急車、救助工作車、指揮車（本部）、指揮車、はしご車、化学車、支援車（Ⅰ型）、支援車（Ⅱ型）、地震車、非常用救急車等を配備できる広さを確保します。また、毎日勤務職員が使用する車両を収納する車庫が別途必要です。

②　点検整備

車庫の前面には、消防車両の点検整備が容易に実施でき、車両の転回ができるスペースを確保します。

③　車庫内設備

隊員が迅速な出動態勢をとれるよう、出動準備室を整備するとともに、資器材収納庫や防火衣の乾燥室等を備えます。

⑶　訓練施設

①　主訓練塔

中高層建物などの消火、救助及び救急活動を実践的に訓練できる施設として耐火造の訓練塔を整備します。また、訓練塔内部には、様々な消防活動に必要な訓練施設（火災を体感するホットトレーニングなど）を併設するものとします。

具体的には、訓練塔内で薪等を燃焼させ、実践的な熱気・煙気、燃焼実験等を可能とするため、耐火、排煙設備等を兼ね備えている訓練塔、また、低層階及び高層階からの救出訓練やはしご車を接塔することができる訓練塔を確保します。

②　補助訓練塔

主訓練塔との間で水平渡過訓練が実施可能で、その他、低所からの救出訓練、降下訓練、三連梯子の架梯訓練等を実施できる施設として、耐火造の補助訓練塔を整備します。

③　訓練塔周囲

訓練塔の周囲には十分なスペースを確保し、はしご車の接塔訓練が容易に実施できるものとし、訓練時に出動指令がかかった際に、大型車両でも迅速に出動できる動線を確保します。

職員の災害対応能力を向上させるために、実践的な消火、救助及び救急

活動の訓練（集団災害訓練、頻発する土砂災害に対応するための訓練）や消防団員と連携して実施する訓練スペースを確保します。

④　その他

荒天時でも車庫施設を屋内訓練場として活用するなど、施設の共用も視野に入れ、効率的な整備を行います。

⑷　その他

①　市民体験コーナー

市民体験コーナー（消火器の取扱い・台風体験、地震体験、煙体験など）を設け、地域住民をはじめ市民の方々が、火災や災害の恐ろしさを肌身を持って体験できるなど、防災・減災教育の質の向上や防災意識の向上を図ります。

②　大規模資機材倉庫

大規模災害時に必要な各種資機材を１箇所に集約することで、防災拠点となる大規模な資機材倉庫を整備します。

５　新庁舎整備に必要な庁舎規模及び敷地面積

枚方消防署管内の消防活動拠点として機能させるため、地震や浸水などの災害に強い構造であるとともに、十分な広さと利便性を有する施設とし、枚方消防署庁舎、消防車両車庫、訓練施設、資機材等の収納施設、燃料などの備蓄施設を整備します。

庁舎施設は、交替制職員（１当務約 20 人）事務室、毎日勤務職員（署長以下約 35 人）事務室、来庁者受付スペース、各種会議室、書庫、トイレ、浴室、食堂、仮眠室、トレーニング室、多目的ホールが必要です。

車庫施設は、消防車両を全車収納できる十分な面積を確保するとともに、迅速な出動態勢を確保する出動準備室、資機材を収納する倉庫や濡れた現場外套を乾燥させる乾燥室などが必要です。

訓練施設は、消防活動能力を維持向上させるための消火、救助及び救急活動を実践的に実施でき、内部にも訓練設備を有する低層及び高層の訓練塔を整備するとともに、はしご車が接塔できる訓練スペースを必要とします。

	施設名	建築面積	延べ面積
施設	庁舎（４階建て）	700 ㎡	2700 ㎡
	現場車両車庫（平屋建て）	300 ㎡	300 ㎡
	その他車両車庫	60 ㎡	60 ㎡
	主訓練塔	37 ㎡	270 ㎡
	補助訓練塔	27 ㎡	130 ㎡
施設合計		1124 ㎡	3460 ㎡
敷地	訓練スペース等	2271 ㎡	
	来庁者駐車場（７台）	105 ㎡	
敷地合計		2376 ㎡	
必要敷地面積		3500 ㎡	

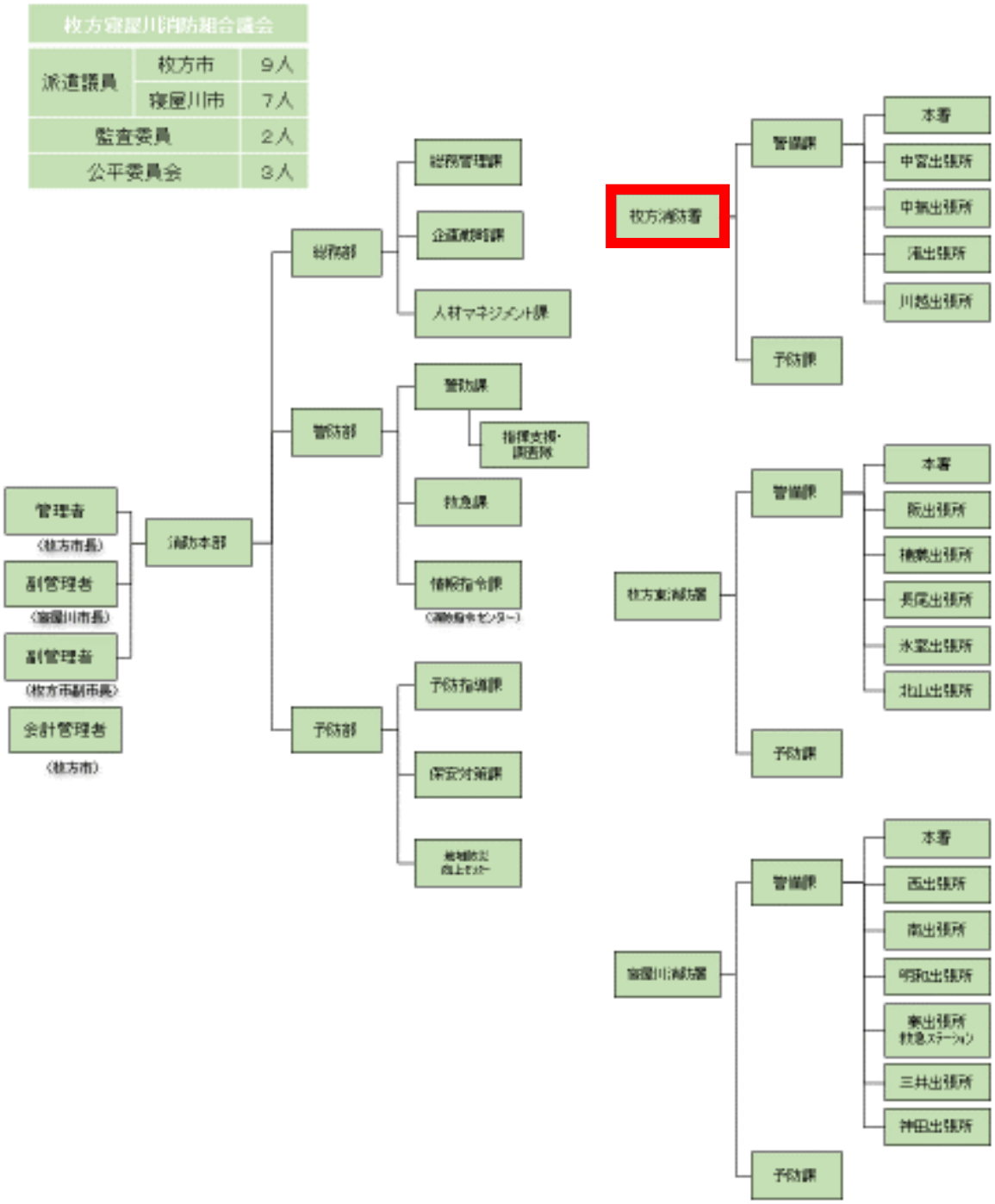
以上のことを踏まえ、敷地 3,500 ㎡以上、庁舎延べ床面積 2,700 ㎡以上とします。

参考資料

【枚方消防署の歴史】

年月日	枚方消防署の歴史
昭和 46 年１月	消防本部・枚方消防署合同庁舎建築
昭和 58 年４月	ガレージ兼倉庫（別棟）建築
平成２年６月	指令センター機能が中振出張所に移転
平成５年４月	枚方消防署へ高規格救急車を配備
平成 10 年８月	消防本部へ緊急消防援助隊指揮車を配備
平成 14 年 10 月	救助工作車（震災対応）を配備
平成 16 年	屋上防水工事を実施
平成 17 年４月	枚方消防署配備の化学車を渚出張所に配備
平成 19 年４月	枚方消防署配備の 30m級はしご車を廃車し、渚出張所に 38m級はしご車を配備
平成 19 年 10 月	耐震改修工事の実施
平成 21 年４月	枚方消防署に高度救助隊発足
平成 27 年４月	枚方消防署に支援車Ⅱ型を配備
平成 27 年７月	新消防本部庁舎（新町）の仮使用開始
平成 28 年２月	新消防本部庁舎運用開始（消防本部機能が新町に移転）
平成 28 年２月	予防部地域防災向上センター事務室を枚方消防署３階フロアに転入

【組織及び機構図】


枚方寝屋川消防組合議会
派遣議員
枚方市
9人
寝屋川市
7人
監査委員
2人
公平委員会
3人
管理者
(枚方市長)
副管理者
(寝屋川市長)
副管理者
(枚方市副市長)
会計管理者
(枚方市)
消防本部
総務部
総務管理課
企画調整課
人材マネジメント課
警防部
警防課
指揮支援・調査隊
救急課
情報指令課
(消防指令センター)
予防部
予防指導課
保安対策課
地域防災向上センター
枚方消防署
警備課
本署
中宮出張所
中振出張所
渚出張所
川越出張所
予防課
枚方東消防署
警備課
本署
阪出張所
樟葉出張所
長尾出張所
氷室出張所
北山出張所
予防課
寝屋川消防署
警備課
本署
西出張所
南出張所
明和出張所
寨出張所
救急ステーション
三井出張所
神田出張所
予防課

【車両配置表】

	総計	消防本部	伊加賀分室	枚方消防署	中宮出張所	中振出張所	渚出張所	川越出張所	枚方東消防署	阪出張所	楠葉出張所	長尾出張所	氷室出張所	北山出張所	寝屋川消防署	西出張所	南出張所	明和出張所	秦出張所（救急ステーション）	三井出張所	神田出張所
総計	114	26	0	11	2	3	6	3	13	3	4	3	3	4	16	2	3	4	2	3	3
CD－Ⅰ型ポンプ車	17	－	－	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	－	1	1
非常用ポンプ車	6	－	－	1	－	－	1	－	1	－	－	1	－	－	1	－	－	－	1	－	－
高規格救急車	17	－	－	1	－	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
非常用救急車	6	－	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	1
救助工作車Ⅲ型	3	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
Ⅲ型化学車	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
３８ｍ級梯子車	3	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
１５ｍ級梯子車	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
遠距離大量送排水車	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－
水槽車	2	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
可搬ポンプ積載車	3	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
指揮車	4	1	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
指揮支援車	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
調査車	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
支援車Ⅰ型	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
支援車Ⅱ型	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	43	20	－	4	－	1	1	1	5	1	1	－	－	1	6	－	1	1	－	－	－